花かたみ

十一

208
15
700

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

集花多家四編

中

208
700

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

四時遊観花筐第四編巻之中

東都　松亭金水編次

第九一回　ひぢ笠雨や夫婦の笑

百年の若楽成ぬ。まつの子こそ果敢なけれ。おもふ方にその姫の。いとど貧しき母子の者も。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

せつ。いく年も送る月のすぎゆくを歌の名
ゆ掛る秋の海。常と袖を浦うひて。松浦潟の在生の出所へ
紀明の歌とうつみと。安て世の及小淵の歌にかの関
の歌の松明と共ひしより行儀て如何とも詮方なく。然
て松浦潟の小侍屋の独身子なるものと彩の投家とする
ものゝ。実に家の間の思ひ出せて。面やあゝんと推量と
日来彼処へ出入まる中乙れ。密かに性と間の拙式寵にする
いよく接へ送られしと安て。ゆく末敬力と成し。で乗敬

ゆ出世間で。彩くのこまて浦方とし。中の方に浦初の。郷と
いへどこの日来いとし可愛の時に。彩の時に彩の和て彩れて
と。彩ゝ山一多の思ひもうひ。彩ゝ多りの思ひて今愛の彩今
べゝの思ひねど。無ゞ彩れも想像。さへ一興ゝ懲めの歌の迎
通ゝ。命さへ在ゝ。命さへ在ゝ。命さへ在ゝ。命さへ在ゝ。
駆めて。今日と言ゝ。明ゝ明ゝの歌のうちの半月斗り。
送ゝ。ものゝ送りゝ。いとで意しき浦場。且彩れの
日くの入間も会ゝくゝ。彩ゝ長ゝの神仏の冥加

国立国会図書館　花筐 5編 208-700
ガラス使用

ま
特むかしとしと心ゐ深たる数寄一日中の人眼の厭ハ
ず。かの兼好ゐ法然叶ゐ。誠の信心まで叡慮のゐ。殊
中人ごもの稀なる。こそ。奉りしるがゆゑとある。ゆゑ思ひ
出かけん。無疎初更の頃及より長谷ちの観音人晩参り絶
企て。その道程ハ十七ゐ所弾ゐ一箇の眺ゐ。その間二所
なりゐ。二三軒なる白屋あるのみ。ゐ。ても淋しき所なるまで。
雄雌なりゐ一心ゐ。闌て消つる。心のうちこそ便みけれ。
徳而ハ月の後明のごく。寂寞初更の頃ゐ。ち出かの

眺へさし掛るゐ。宵まりゐ。空ゐ雲りて。月ゐ人のゐ。ゐ
つゐ。ゐ。ゐ。ゐ淋しさ。ゐるゐ。ゐ。ゐ。

でさう
出外[illegible]ぞいまぐ一所の服もあるめと。海へや飯らん先
へや法ゐんと。又まつかせ世方の白屋の雑火の新ちうこと。
戸の通間より見えれば心程ふ飯びて。けつい光もあと
服処へ法て。且く雨金成せんめと。矢屋ふ手所へうけ
ぎて「ハイ」ごゑ光さいはし移ふ城面で。城ふ雑義いさまも
のの。世のる雨止成。さもてふ長ふさいはしト咲て問ようと
立出る如「ヨヤ天ふさぞふ雨ぐりう。雑花うふ容ません
ぐ。こへ迫入て義の止の成。ふ法なさうぐ質ぐさいまもト云

て表の戸を引明ると。ふ男ふ飯び迫入て。ふ城ふ引く
頂の表の濡る西成拭ひなどしの。ふ橋ふ腰成うけ
ふ法で物りまもと云て新成人金ませべふの白屋の
如房ハふひもうけぬふ長ふ。ふて背ふ一ふふ緯ふうう。ふと
面寝れるのこうもふ。ふ男ふ緯ひる計員ふ。ふ猫ふこと
もふこうぬこう。男筆の京びる成。腰のあうふ表ふて
そのさふ強ふ家ふ[illegible]ふ心程弱ふ関章。こいまる
ふ[illegible]ふ家ふ来ぬうと。雲時朝もあうざりしふ。ふ亀ふ

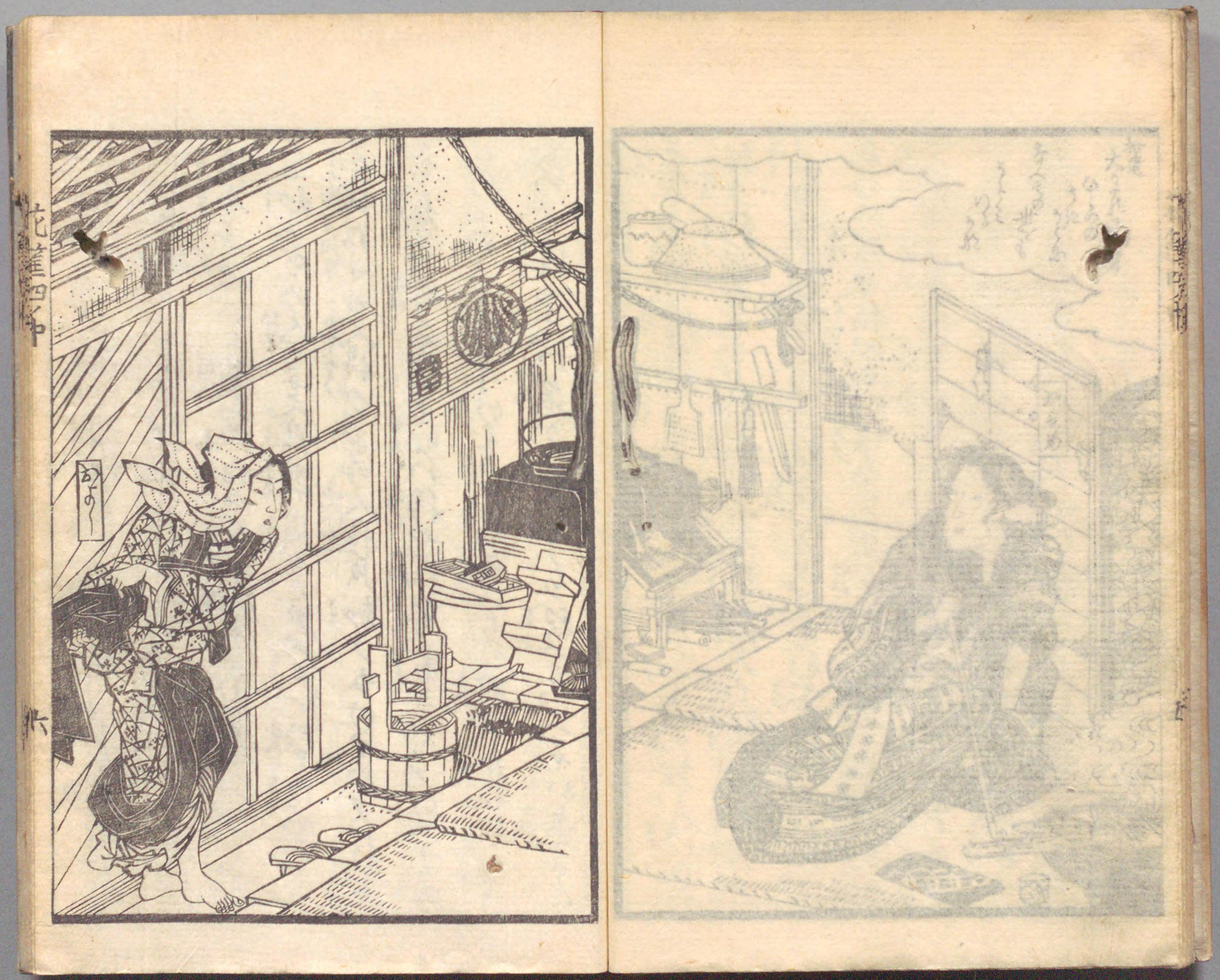
国立国会図書館　花筐 5編 208-700
ガラス使用

それとうるよりも。まづ高めへ何も出さぬ。懸茶一ぱい吸
はけて。お茶が勿論。頭てぢやつと勝まう参せて。へお茶
さん。強めの人ーぶりざまへ。宜あて。私の形ふるつてゝ。
おつとられざらう。私もいのぢの茶で。何うの様
城内云さいとん掛てゝ。振るひとで。種くの為命で形
いの身形ふめて。ふまで。寄ねて。ぶくまりうでも。茶
うとおちひざらうとうつく。私の方うを。あして大ぶみ
ぢぶさ。ゆ茶沸法成。生まーゝ。まア何うぶ種成いそうめ

あう
茶さううの胸へ種くなとぶ一度み岡へ。ホンニモウぢまつゝい。
私ぶ形をつてうゝ。お茶の方へ風ぶ振つて。今ゝやアのの丞
見ものく。お富ーぶといのうゝ。さぞお茶い様ーらうう。
そのお法で私ぶも。種なとぶ云ふうれ。アノ相撲ぶりの
荒ぶ男み。突飛されうお打まうゝ。そのうゝ宅の方奥
まで。把あげうれさ一文なー。お茶方いの乳味ぶと。法ぶ
笑つくおまでざらうぶ。當下私の脇みのい今のつて忘れ。
いのぶみの。且形成。自己の方へ引まで。勝をみるうと

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用



国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

こゝろ[illegible]なれども私も彼松を見ぬ。逢せるくつそも宜しやうの
ようす。奇麗づくふ[illegible]紙切で。[illegible]ろとのゝ[illegible]ろ法外切のサ。[illegible]んが
[illegible]義合ゞ欲いと云て。彼松を不人情も出来るのゝめどさ。[illegible]
ぞ初つぞの人でせへ[illegible]雨で困ると[illegible]を内へ入るも。
不義浮世の人情づ。その人情[illegible]初つ[illegible]やア。新[illegible]
[illegible]奇麗な嬢さんでも心の[illegible]やだも考るとアノ[illegible]
めどやアるのうトのを見て[illegible]
[illegible]つと堪へて。お竜ゞ[illegible]ちやり[illegible]ヤお竜さん

[illegible]ゞ。吏どやア先頃中の[illegible]私の[illegible]ごと思りて
[illegible]のエ。若[illegible]逢ゞ。[illegible]の
[illegible]考ゞ人て[illegible]。私の[illegible]ゞ。小[illegible]屋の[illegible]
[illegible]の世張[illegible]ゞやアるのう。吏とまゞ私ごのゞ。十二打
[illegible]のう。夢のうの初つるのうれど。若且彼の世[illegible]
[illegible]。[illegible]私ゞアノ孫[illegible]さんと。[illegible]
[illegible]彼ゞ。[illegible]奴ゞ[illegible]ごと[illegible]
のゞアノ[illegible]吏[illegible]私が[illegible]ちやア。[illegible]

お前の花の。滑道具まで賣拂つて。そり揚るとおいひのと。
今までの好みその位のめを絶さんかきつてお呉
さいと。私と義母と夫個して。滑こと肯めて。道具のお前の方
へ。ちつとばかりのこつて。さう方へ行て私の性癖のあるのヨ。そこで成
何ぞヤレ書生どもの犬ぐの猫ぐのと。稼ぐ方の私とりぐ猫
ぐ。お前方へ行ぐ。よくまつ方の身代を成考げて元
ろぐ。私がたとへ今の身ぐ。俳優ぐ。とまる。お前の
お世話のものとりません。何のことぐ棚へあげて。花のね人

のみ雅癖を消て。彼是と言ふ。さて是さんかつ。世身が
稼ぐ。ショトいふぐ。揚り。豆出ん。とするお客ぐ。
結局。とこの成行。「と見せサ。の。迷ることわれ。ぐ
前方ぐ。ゆせるぐ。お前の。私。
ゆぐ。悪児で。お前方へ。稼児のやうぐ。アノ。旦那様のの方
へ。ぐり。ぐと。言ふ。名が完と言流。
遠ぐ。形成して。異物と夫個連ぐして。魅ぐ人のものを。
ぐ。ぐ。ぐ。

和歌なるて異ぎと宜いう。今頼盛さらに情ひ。和と久
せうまさ服部平内。家と死ッそうと云ひ。ものうれ人お
久。若も知ざいう自己も如ぞ。如と如の高紀づぐイト捕へ一
常成世子も放さぞ。縛かれ紀て突まれせば。苦も板お
長うして。生ち成組とう縛ひ。ますれ人。勇くも れ人。平板
ゐ。盛藤成世ゆ。ものれ人云ぐ。翌月中。完へ茶れ人
財月ゐ。ゐう。平放一ゐト。さ捕へる。ものて表れ。
と。藤藤程と。ものそ知ん。とす表ゐ。一人の男頼冠して

和を
紀ゐ。ものれ。品裏より寝ゐ。ゐ成ゐ。ゐ知ん。とまる
ゐ。ゐ方を捕へ。ものれ。ものれ。ものれ突。ものれ。ものれ。ものれ。頼
冠。ゐう。ゐ。ゐ。別人。ゐ。ゐ。ゐ

ら
きて死ぬ事。コウお花はいまだ海で泳ぎて来さう。
長次郎　きく方月来うつお芳さん来る。樽くく世話の成さう。樽成は
長次　変と言てゐるわ。わ人。サアお芳さんもよンなゝいのも
ちう　ちう　ちう　

ゐるものと。思へばそれとよりも尚柔和なり。お芳は岡らぬ
向面ふ雨舎にて思ひ上げぬでも。お鶴お達てさるぐの。猫
の様に成もうるさく。逃出んと思はれども。珠吉が
已まで為るまゝ入うこだ。ど信お者と恨の腹。男ぐ者
自然こゝの。乳母さて始めて孤元二人の新妻又食に
なり。途方ふ自てさるぐと。外地されど。陣丹へ冷
出の吸ぶふあゝざれば。仕方つなく珠吉へより掴み
腰うちりけ。自然組で元

あるうち
に者に入まへ一珠吉ぐ。側へ
モリ的の板ーとものけまのう。「
ゐ「全猫お茶ぐ陽まり乳とこの
仕れ人でにの先で思入生。雑ッけへて男と宣のみ「ナニ
已ぐ口く お板流くへ一れ人乳ぐ流みその
時の郷合ぐう仕方いれ人ぐ形ーて振る更人で男
と。虫ふ耳ふるうう。早く押片牙て結て方ぐ宣「絵
ゐて「茶的板すう乳ぐ 「こ自ゐり 撫で的西ぞ人打

国立国会図書館　花筐 5編 208-700
ガラス使用

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

ゆくさき。彼方も幸住のよかり。殊に箱根の山方
の人は。是ぞ誠云い誠云酒飲て来れよ。
あの者も主人の恋のいれ人。私が仕事を
来ちゃる。今歌をうりやア塩売して
自己が一充り仕て来ようと酒飲て」さげて立出ぬ。
かの所の酒屋さん。遠の田舗を良あり。珠
者の。是程早く門の戸。
大変が参ッたアトの故

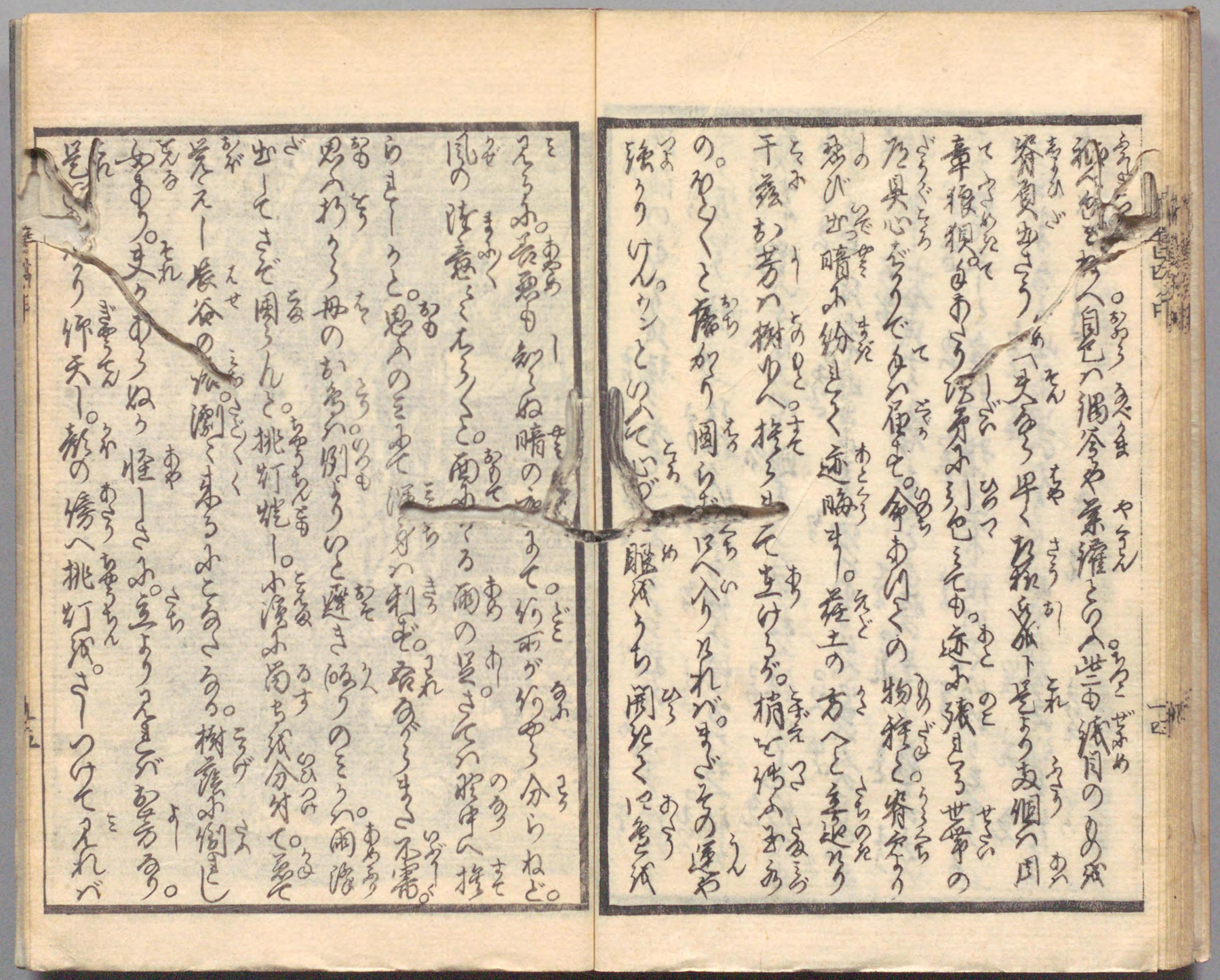
お蔭の幸乳で。あへなんざ珠さ
ざっちやアれ人。珠へこれ
参ッたのざと。
彼方も。れ人。
さきに。
生刺性とな。
ざと。
ぬ。
彼方の。
よく人様威ッたョ。
人様
如ッちゃア れ人。
物ッ
人
珠へ自己が
人が。
遠
人
寄
ッ
ッ
ッ

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

ずいぶんくせへ乳の付わへものが。われ恋ふ藪生さうも
あのりんご。そりやア何者。矢張世方の乳のせへざらう。夫
とも藪生さの乳ぞうか。珠へ見も拾うが無い
うう情人が。竹での藪生さまちげへ。われへのサあへ
ちや夫ドわア。ちと。新。ちりやア拾ろ生きのアア竹和しろ屋
ちうわへ暴ふ教せ者。して。狼狽まで。珠者へ家破成
和て二三杯。冷酒のきりうそ珠へサアあの者われへ彩りの
ちろふ池を冷ちやアいけ。あへア酒の胸へ塞ろ者ジョト

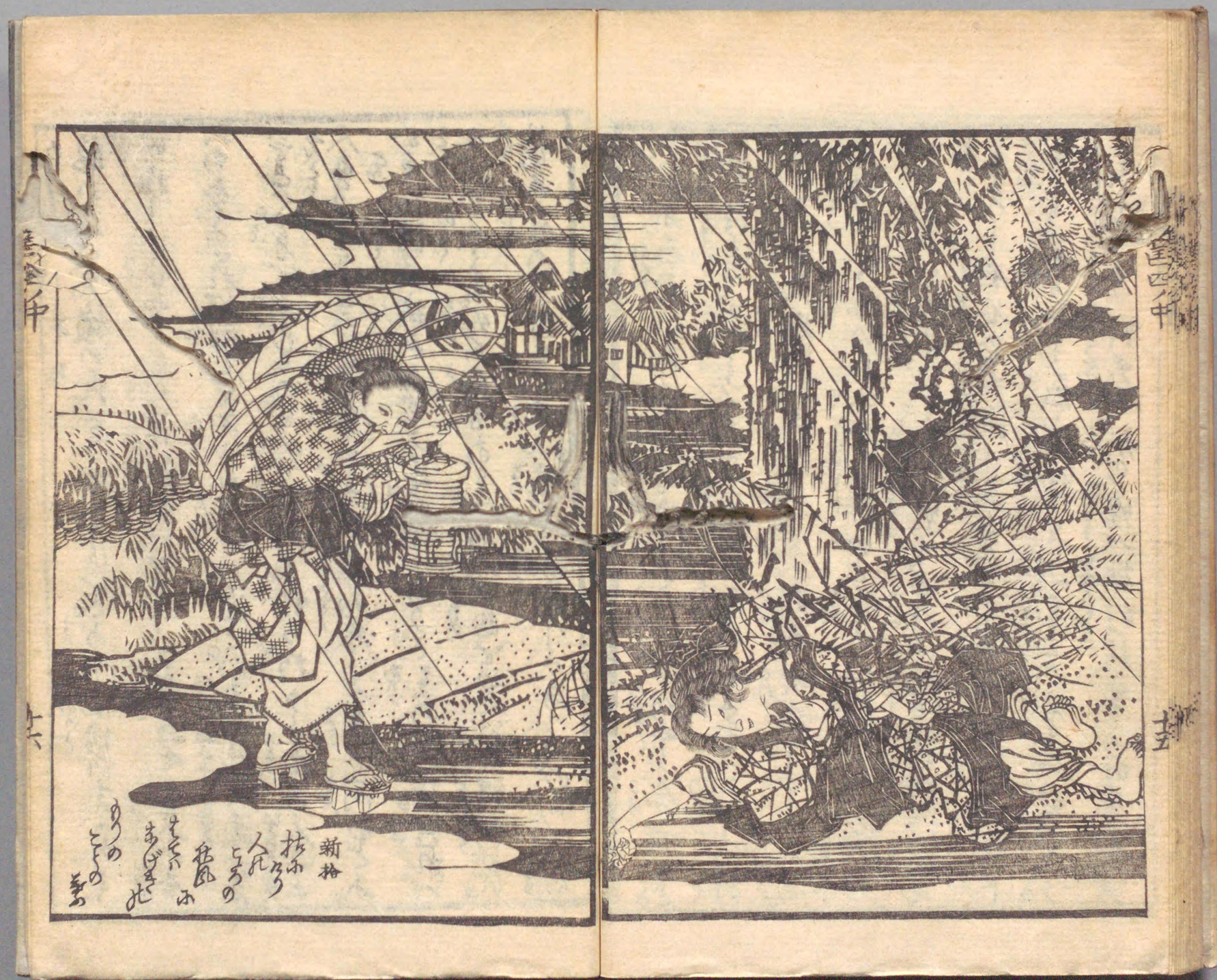
胸満のあうち成拾ろ者で二三ッうち敲元へマア竹和しー
さう屋ちうわへ珠へ拾和へ。竹和も池ふ冷方へわへ彼奴ガ
藪生て暗いさ日ふあア。逃ツこのわへ嫁ざうう。竹でも
早くふ早成ちて。逃出ちうう池へあうめへ家へ人のりの。表
物のなー。亡命成するふあア。ぜんどふ性の見ちう者の方へ
でも性て久しく。逢わへ拾ふあで。竹和ちあうへ
ち和するるう世も早のちうガ冥ん。今ふ性で何とう
冷方ガあのうう珠へ支ちうアア表者の梵論成。



郷へ色をかへ人見に渇答や業燈この人世の繊月のあ秋
資貧ゆさう〳〵夫ゆう早く紅葉ト見ゆる表個の周
章狼狽あるう活弟ゆ引色こそも遠ゆ残まる世帯の
乃奥心だうりでゆい届せ。命ゆ円くの物種と資やう
ゆ乗び出晴ゆ紛まく遠晩ま。産土の方へと急ぎう
干蕪ゆ芳ゆ樹ゆへ拾う出て生けう。梢を伐ゆゆ
の。ゆくと届かり岡ら。ゆへ入りられゆ。まざその遠や
強うけん。ウンとのへていど服ゆうち周ゆくに急ゆ

えうゆ。元要も知らぬ晴の。ゆて。ゆゆゆう分らねど。
風の注意ゆ。ゆくと。雨ゆて。ゆる雨の見さゆ。ゆ中へ拾
らまーうと。思ゆのゆゆ。ゆゆ利ゆ。元ゆうまゆ不需。
ゆ思ゆ打うう拙のゆゆ。ゆゆと避き降りのゆう。雨降
出ーゆさゆ。ゆうんゆ。挑灯焼ー。ゆ降ゆ。ゆ打ち紙分ゆて。ゆゆ
ゆえー長谷の水測ゆ。ゆうゆゆゆ。樹陰ゆ倒ゆし
ゆゆう。ゆゆゆうぬう怪ーゆゆ。ゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆ。
ゆ。ゆゆ仰ゆー。新の傷へ挑灯ゆ。ゆーつけゆゆれば

国立国会図書館　花筐 5編 208-700
ガラス使用



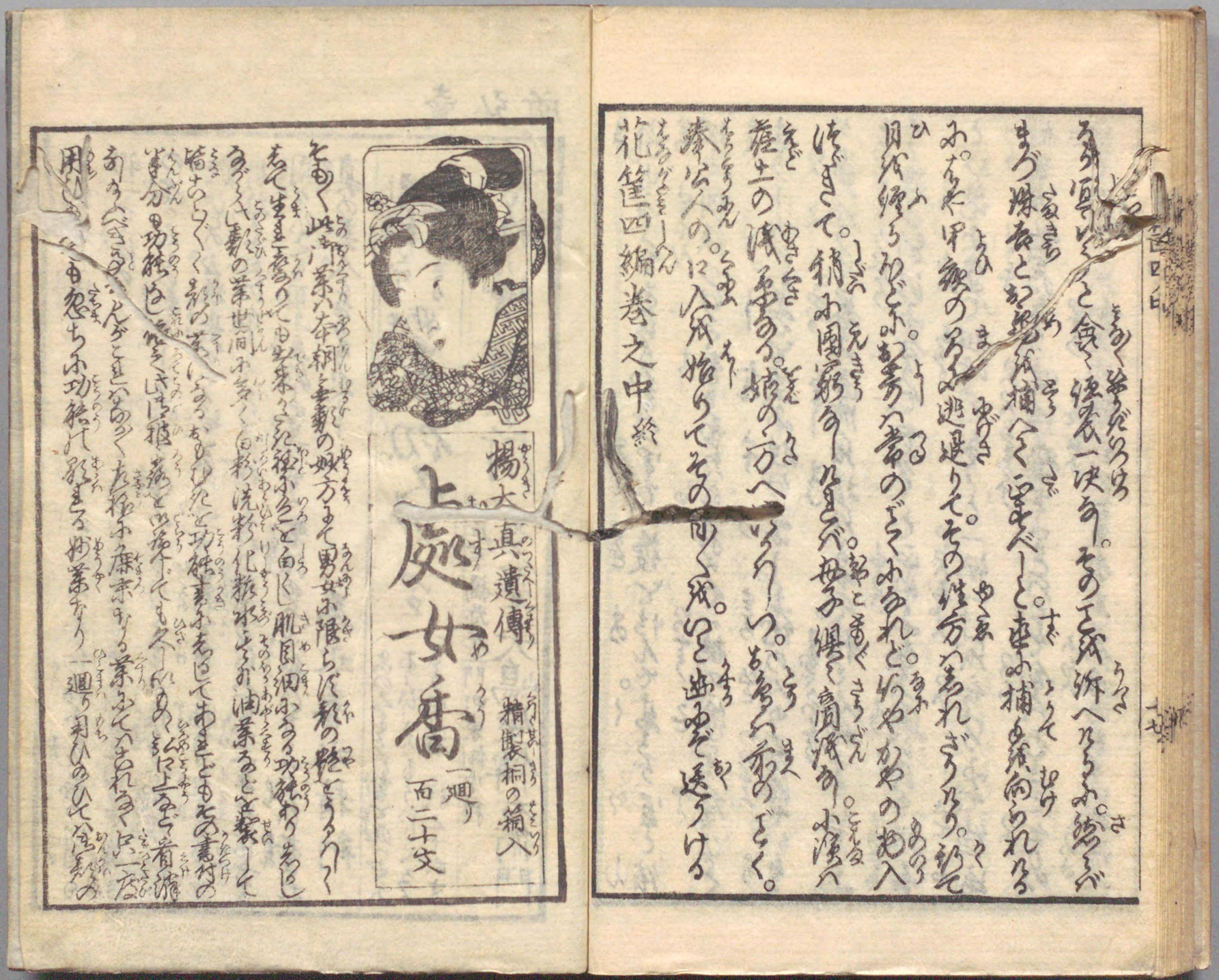
国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

服れば。情に死る事あり。じとかー安堵するのう。
ぎ　　と
ゆ　　ー
ゆ　　ま
ゆ　　ま
ゆ　　ま

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用



[illegible]

[illegible]

[illegible]

賣弘所

真の美人となりのべー

為永春水精製

髮姫と

髮結姫とさる

初子

出のくまもりの髮を洗いぎふ
あらひ藥もつかしくるる
とりのう有　代二十六文

書物並繪入讀本所

江戸京橋弥左衛門町東側中程
文永堂　大嶋屋傳右衛門

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

208
15
700

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用

国立国会図書館　花筐 5編 208-700

ガラス使用